

5 基礎自治体の補完・連携の仕組み

第5章1 地域別の基本方向（P153）でも記載しているとおり、県民の日常生活の範囲は広域化、重層化しています。

各地方振興局を中心に、所管地域内はもとより、所管地域を越えた重層的な観点や地域間の補完・連携、県域を越えた広域的な連携を推進していきます。

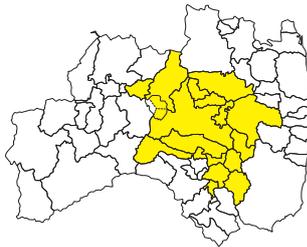
●補完・連携の事例

こおりやま広域連携中枢都市圏

郡山市を含む17市町村では、住民が引き続き現在の居住地で生活できるように利便性を維持向上させ、将来にわたって豊かな地域として持続していくことを目指し、連携中枢都市圏の形成を進めています。

本圏域では、各市町村それぞれの広域的・国際的連携等も視野に入れた、主体的なまちづくりの理念と課題を踏まえた将来展望実現に向け相互に資するとともに、広域的に学び、働き、暮らし続けることができる圏域づくりを推進していきます。

出典：郡山市ウェブサイト こおりやま広域圏について 連携中枢都市宣言書



○構成市町村

(5市8町4村)

郡山市、須賀川市、二本松市、田村市、本宮市、大玉村、鏡石町、天栄村、磐梯町、猪苗代町、石川町、玉川村、平田村、浅川町、古殿町、三春町、小野町

○関連する地方振興局

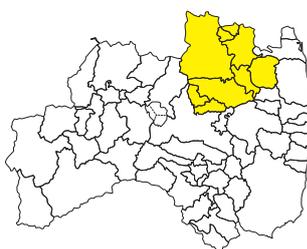
県中地方振興局 県北地方振興局 会津地方振興局

ふくしま田園中枢都市圏

福島市を含むふくしま圏域は、東京圏からのアクセスが良く、都市としての高い生活機能と利便性を持ちながら、豊かな自然と農村が織りなす田園を併せ持ち、温かみのある地域社会が形成された中で、ゆとりのある生活をおくることが出来る圏域であり、南東北の要の都市圏として更なる発展を目指します。

東日本大震災からの復興はまだ道半ばであり、「福島」の名を冠する圏域として、復興創生を更に推進し、本県の復興創生をけん引していかねばなりません。

圏域市町村と更に連携を深め、それぞれの持つ都市機能や強み、特長等をいかし、圏域住民には「暮らしやすい、住み続けたい」と思ってもらうとともに、圏域外の人には「住んでみたい」と思ってもらえるような魅力あふれる圏域の実現を目指します。



○構成市町村

(4市3町2村)

福島市、二本松市、伊達市、本宮市、桑折町、国見町、川俣町、大玉村、飯舘村

○関連する地方振興局

県北地方振興局 相双地方振興局

定住自立圏構想

我が国は、今後、総人口の減少及び少子化・高齢化の進行が見込まれています。今後は、三大都市圏でも人口減少が見込まれますが、特に地方においては、大幅な人口減少と急速な少子化・高齢化が見込まれています。

このような状況を踏まえ、地方圏において安心して暮らせる地域を各地に形成し、地方圏から三大都市圏への人口流出を食い止めるとともに、三大都市圏の住民にもそれぞれのライフステージやライフスタイルに応じた居住の選択肢を提供し、地方圏への人の流れを創出することが求められています。

市町村の主体的取組として、「中心市」の都市機能と「近隣市町村」の農林水産業、自然環境、歴史、文化など、それぞれの魅力を活用して、NPOや企業といった民間の担い手を含め、相互に役割分担し、連携・協力することにより、地域住民のいのちと暮らしを守るため圏域全体で必要な生活機能を確保し、地方圏への人口定住を促進する政策です。

平成21年4月から全国展開し、現在、各地で取組が進んでいます。

出典：総務省ウェブサイト 定住自立圏構想

しらかわ地域定住自立圏



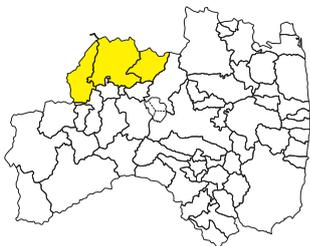
- 構成市町村
(1市4町4村)
白河市、西郷村、泉崎村、中島村、矢吹町、棚倉町、
矢祭町、塙町、鮫川村
- 関連する地方振興局
県南地方振興局

八溝山周辺地域定住自立圏



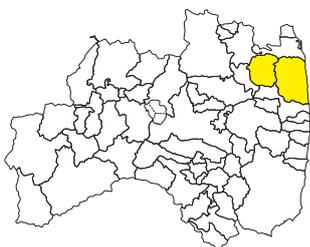
- 構成市町村
(2市6町)
福島県 棚倉町、矢祭町、塙町
栃木県 大田原市、那須塩原市、那須町、那珂川町
茨城県 大子町
- 関連する地方振興局
県南地方振興局

喜多方地方定住自立圏



- 構成市町村
(1市1町1村)
喜多方市、北塩原村、西会津町
- 関連する地方振興局
会津地方振興局

南相馬圏域定住自立圏



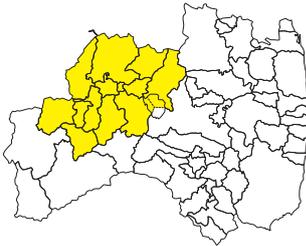
- 構成市町村
(1市1村)
南相馬市、飯舘村
- 関連する地方振興局
相双地方振興局

会津地域課題解決連携推進会議

人口減少や少子高齢化が他の地域よりも著しく進んでいる現状を踏まえ、医療・福祉、移住・定住、鳥獣被害、広域観光など、様々な地域課題について、市町村や県、民間団体等が密接に連携協力して解決を図るために設置しました。

特に、令和3（2021）年度には、13市町村と県が連携して、デジタル技術を始め、あらゆる手法を活用し、健康で文化的な満足度の高い会津での生活を実現するための「人生100年時代会津地域自治体広域連携指針」（以下「指針」という。）を策定しました。

今後は、指針に基づき具体的な事業について見直しを行いながら、13市町村と県が連携して課題解決に取り組んでいきます。



○構成市町村

（2市8町3村）

会津若松市、喜多方市、北塩原村、西会津町、磐梯町、猪苗代町、会津坂下町、湯川村、柳津町、三島町、金山町、昭和村、会津美里町

○関連する地方振興局

会津地方振興局 南会津地方振興局

奥会津五町村活性化協議会

奥会津五町村活性化協議会は、只見川流域の5町村で構成され、事務局を「奥会津振興センター」に設置しています。

5町村が共通して直面する課題（人口減少・少子高齢化）への対応や森林資源を始めとした地域資源の積極的な活用を図るため、構成5町村及び県の職員が一体となり事務局で各種事業に取り組んでいます。

J R只見線の全線再開通や、国道289号（八十里越え）、国道401号（博士峠バイパス）の開通などを奥会津5町村の活性化を図る契機と捉え、地域資源を活用した取組を進めています。



○構成市町村

（4町1村）

柳津町、三島町、金山町、昭和村、只見町

○関連する地方振興局

会津地方振興局 南会津地方振興局

只見川電源流域振興協議会

只見川電源流域振興協議会は、只見川・野尻川・伊南川流域の7町村で構成されており、事務局を「奥会津振興センター」に設置しています。

この7町村は「奥会津」と呼ばれる地域で、広大なブナの原生林など豊富な森林資源、急峻な山岳と只見川を始めとした河川の優美な景観、そこで営まれる人々の暮らしぶりから「日本の原風景」が今なお色濃く残る地域として多くの人々を魅了しています。

この地域はまた、県内でも特に人口減少・少子高齢化が進んでいる地域でもあり、これらの地域課題に対応するため、只見川電源流域振興協議会では「『歳時記の郷・奥会津』自然のなかに暮らすいとなみ、100年先のみらいへ」を基本理念とした「第4期只見川電源流域振興計画」を策定し、「歳時記の郷・奥会津活性化事業」として、地域文化の継承、地域住民による広域的な地域づくり、奥会津製品の振興に取り組んでいます。



- 構成市町村
(5町2村)
柳津町、三島町、金山町、昭和村、檜枝岐村、只見町、南会津町
- 関連する地方振興局
会津地方振興局 南会津地方振興局

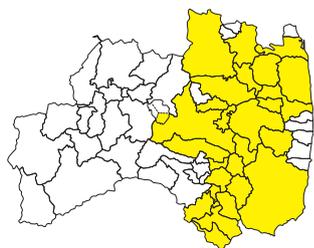
福島県阿武隈地域振興協議会

阿武隈地域は、福島県の東部に位置し、東京から約150km～250kmのところにあります。近年、東北自動車道や磐越自動車道、東北新幹線、福島空港などのアクセスが急速に向上しています。

また、阿武隈山系と八溝山系からなる26市町村にまたがり、南北約100km、東西約40kmという広大な地域で、森林と高原がなだらかな自然環境であり、夏も冬も快適な気候です。

本協議会は、阿武隈地域の振興を図り、こころ豊かな生活をあぶくま地域で実現する「ふるさとあぶくま交流圏」を創造することを目的としています。

出典：福島県阿武隈地域振興協議会事務局 福島県町村会ウェブサイト

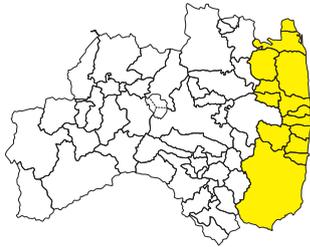


- 構成市町村
(10市10町6村)
福島市、二本松市、伊達市、川俣町、本宮市、郡山市、須賀川市、田村市、三春町、小野町、玉川村、平田村、石川町、浅川町、古殿町、飯舘村、相馬市、南相馬市、葛尾村、浪江町、川内村、棚倉町、矢祭町、塙町、鮫川村、いわき市
- 関連する地方振興局
県北地方振興局 県中地方振興局 県南地方振興局
相双地方振興局 いわき地方振興局

うつくしま浜街道観光推進会議

「うつくしま浜街道観光推進会議」は、福島県浜通り地方の13市町村と関係機関・団体が一体となり、陸前浜街道の美しい観光資源を活用した観光振興を推進しています。

出典：うつくしま浜街道ウェブサイト



○構成市町村

(3市7町3村)

新地町、相馬市、南相馬市、飯舘村、葛尾村、浪江町、双葉町、大熊町、川内村、富岡町、楡葉町、広野町、いわき市

○関連する地方振興局

相双地方振興局 いわき地方振興局